



日本銀行金融研究所

# 貨幣博物館

CURRENCY MUSEUM  
Institute for Monetary and Economic Studies  
Bank of Japan

常設展示図録



日本銀行金融研究所

# 貨幣博物館

C U R R E N C Y M U S E U M



## ご挨拶

日本銀行金融研究所貨幣博物館では、貨幣および貨幣に関する歴史的、文化的な資料を収集・保存し、それらの調査研究を進めつつ、広く一般に公開しています。

貨幣博物館の所蔵資料の中核となっているのは、古貨幣収集家・研究家であった田中啓文氏(1884～1956年)が収集した銭幣館コレクションです。田中啓文氏は、わが国の古代から近代にいたる貨幣だけでなく、中国を中心とする東アジアの貨幣や、貨幣に関するさまざまな資料を収集していました。これらの資料が展示・保管されていた博物館が「銭幣館」で、1944年、戦火による喪失を避けるため、収集資料は日本銀行に寄贈されました。

貨幣博物館は、これらの資料を公開するため、日本銀行創立100周年(1982年)を記念して1985年11月に開館しました。貨幣そのものや関係資料、研究成果をご覧頂くことにより、貨幣の歴史や役割、貨幣と文化・社会の関わりについて考えて頂くきっかけとなれば幸いです。

日本銀行金融研究所貨幣博物館

## Greetings

The Currency Museum of the Bank of Japan's Institute for Monetary and Economic Studies collects, preserves, and studies currency and currency-related historical and cultural materials. The Currency Museum is open to the public.

The Sempeikan Collection, the core of the Currency Museum's holdings, comprises the private collection of Mr. Tanaka Keibun (1884-1956), a numismatist of old currency. He collected not only the currencies of ancient to modern Japan but also those of other East Asian countries, mainly China, and a wide range of currency-related materials. The Sempeikan was a museum that exhibited and stored these materials. Its collection was donated to the Bank of Japan in 1944 to prevent its loss amid the destruction of World War II.

Organized as a part of the commemoration of the Bank's 100th anniversary in 1982, the Currency Museum opened in November 1985 to display the materials to the public. We hope visitors have an opportunity to think about the history and role of currency and its relation to culture and society through viewing the Museum's collection of coins, notes, related materials, and research results.

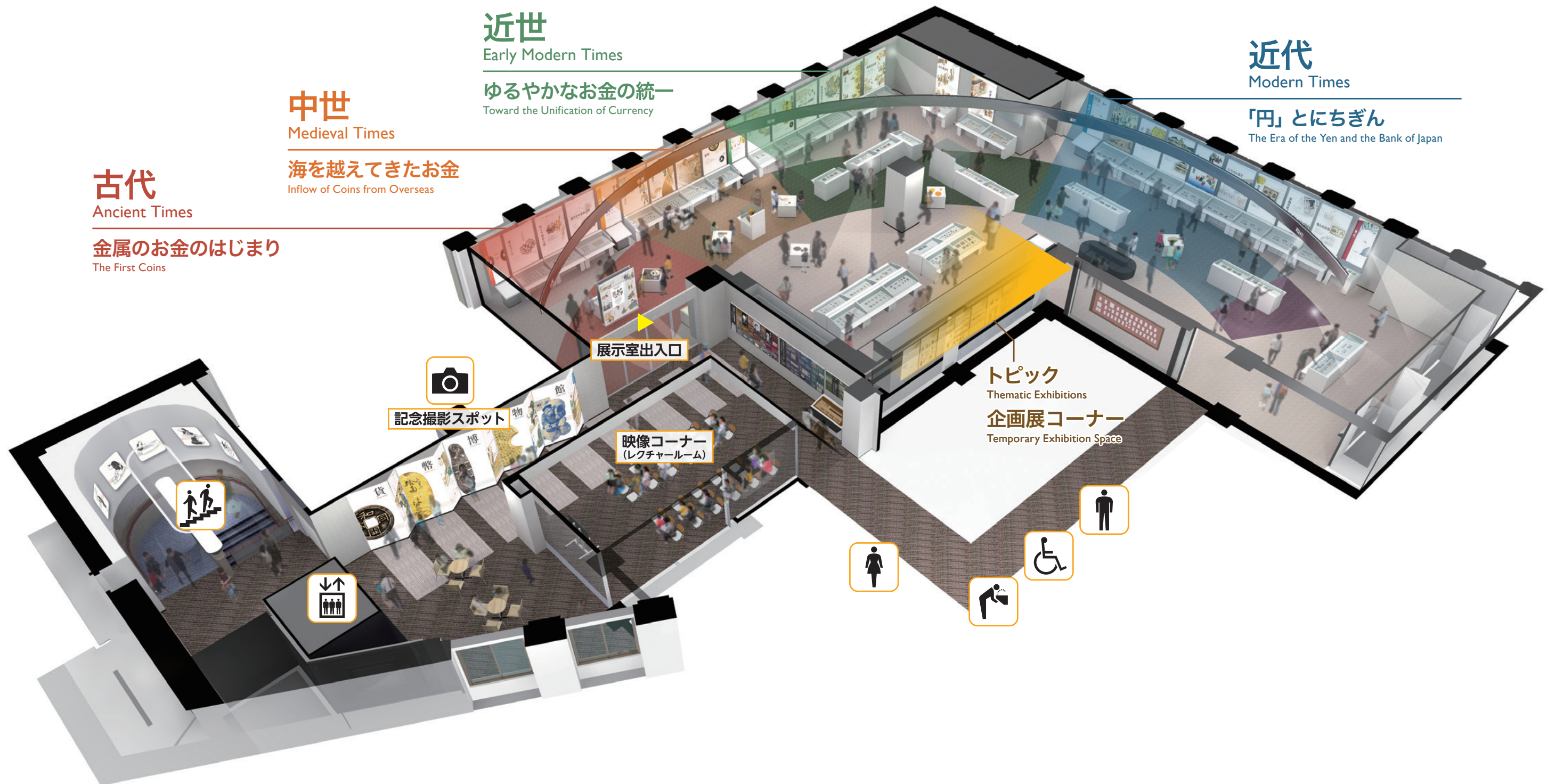
Currency Museum, Institute for Monetary and Economic Studies  
Bank of Japan





## 館内のご案内

Map of the Exhibition Space





# 目次

|             |   |
|-------------|---|
| ご挨拶         | 2 |
| 館内のご案内      | 4 |
| 目次          | 6 |
| 銭幣館から貨幣博物館へ | 8 |

## 古代

|             |    |
|-------------|----|
| 金属のお金のはじまり  | 13 |
| 1  錢をつくる    | 14 |
| 2  めぐり始めた錢  | 15 |
| 3  錢をつかう    | 16 |
| topic お金と祈り | 17 |
| 4  錢にかわる米と布 | 18 |

## 中世

|            |    |
|------------|----|
| 海を越えてきたお金  | 19 |
| 1  錢がやってきた | 20 |
| 2  米か、錢か   | 22 |
| 3  市のにぎわい  | 23 |
| 4  埋められた錢  | 24 |
| 5  えりぜに 撰錢 | 25 |

## 近世

|                            |    |
|----------------------------|----|
| ゆるやかなお金の統一                 | 27 |
| 1  金銀を掘る                   | 28 |
| 2  黄金の分銅                   | 30 |
| 3  貨幣天下統一                  | 32 |
| 4  海外へ出た金銀銅                | 34 |
| 5  物流を支えたお金                | 36 |
| 6  両替屋の金融力                 | 37 |
| 7  両替屋のしごと                 | 38 |
| 8  金貨の改鑄                   | 40 |
| topic 金貨のできるまで             | 42 |
| 9  大判の移り変わり                | 44 |
| 10  銀貨の移り変わり               | 46 |
| 11  さまざまな錢貨の発行             | 48 |
| topic えだせん 枝錢からわかる錢貨のつくりかた | 50 |

|                  |    |
|------------------|----|
| 12  庶民のお金        | 52 |
| 13  お札をつかう       | 54 |
| 14  さまざまな江戸時代の紙幣 | 56 |
| topic 偽札を防ぐ技術    | 58 |
| topic お金を贈る      | 59 |
| 15  お金の使われ方      | 60 |
| topic 福の神とお金     | 62 |
| topic 庶民の旅ブーム    | 63 |
| topic 人生とお金      | 64 |

## 近現代

|                 |    |
|-----------------|----|
| 「円」とにちぎん        | 65 |
| 1  幕末開港         | 66 |
| 2  幕末期のお金       | 68 |
| 3  明治維新期のお金     | 70 |
| 4  「円」の誕生       | 72 |
| 5  新しいお金との交換    | 74 |
| 6  広がる民間銀行      | 76 |
| 7  乱発される紙幣      | 78 |
| 8  にちぎん誕生       | 80 |
| topic 日本銀行本店    | 82 |
| 9  金本位制の導入      | 83 |
| topic お金の材料     | 84 |
| 10  お金の使われ方     | 86 |
| 11  金融恐慌        | 87 |
| 12  きん 金との決別    | 88 |
| 13  新円切替えと人々の生活 | 89 |
| 現代へ             | 91 |
| 施設紹介            | 92 |



# 銭幣館から貨幣博物館へ

From the Sempeikan to the Currency Museum

## 貨幣博物館と三人の人物



田中啓文

たなか けいぶん  
田中 啓文 Tanaka Keibun  
1884年7月 東京・白金生まれ(本名:田中 謙)  
1906年 古銭収集家の同人会  
東京古泉協会に入会  
1918年 東洋貨幣協会(旧東京古泉協会)  
理事兼幹事に就任  
1920年 第3代東洋貨幣協会会長に就任  
1923年1月 東洋貨幣研究所銭幣館 開館  
1950年7月 貨幣研究雑誌『銭幣館』を創刊  
1956年12月 逝去



渋澤敬三

しぶさわ けいぞう  
渋澤 敬三 Shibusawa Keizo  
1896年8月 東京・深川生まれ  
1936年 北多摩郡保谷村に民族学会付属  
博物館を開館  
1942年3月～  
1944年3月 日本銀行副総裁  
1944年3月～  
1945年10月 第16代日本銀行総裁  
1945年10月～  
1946年5月 大蔵大臣(幣原内閣)  
1963年10月 逝去



郡司勇夫

ぐんじ いさお  
郡司 勇夫 Gunji Isao  
1910年11月 東京・神田生まれ  
1930年 銭幣館に入り、田中啓文氏に師事  
1945年1月 銭幣館コレクションとともに  
日本銀行へ  
1972～1976年 『図録 日本の貨幣』執筆・編さん  
1981年 『日本貨幣図鑑』執筆・編さん  
1997年6月 逝去



### はじまりは一文銭

田中啓文氏が子どもの頃、寛永通宝一文銭はまだ1厘として通用していました。お小遣いとしてももらった色々な古い銭を集めたのがはじまりで、小さな古銭家が誕生しました。



銭幣館で貨幣を手取る田中啓文氏



桐箱に入ったコレクション

### 1923(大正12)年 「銭幣館」開館

古貨幣収集・研究家となった田中啓文氏は、自邸内に収集した貨幣や関連資料を保管・展示し、研究活動を行う博物館「銭幣館」を設立しました。  
銭幣館コレクションは、世界有数の東洋貨幣コレクションで、古貨幣のみならず、日本の貨幣史、経済史を研究するうえで重要な文書や絵画・民俗資料などを幅広く含み、総数は10万点にも及びました。

### 戦禍からコレクションを守る

1944年、田中啓文氏は戦禍から守るため銭幣館コレクションを日本銀行へ寄贈しました。こうした背景には、田中氏と日本銀行の結城豊太郎(第15代)、渋澤敬三(第16代)両総裁との交流がありました。

### 将来は博物館を

渋澤総裁は、民俗資料の収集・研究家でもあり、文化財の保護に理解が深い人物でした。その手記には、日本銀行にきた時から「日銀に金融図書館と貨幣博物館を併設したい」という夢があったとも書かれています。



本館会議室にて皇太子殿下(当時)にご説明する郡司勇夫氏

### 専門家を置く

コレクションの受け入れと同時に、日本銀行は当時銭幣館で資料の整理・研究に携わっていた郡司勇夫氏を迎え入れました。これは渋澤総裁の考えによるもので、受け入れた資料の整理・研究を続けられるようにすることが目的でした。



銭幣館蔵品揃換集

### 文化財は自らの手で守り、生かすべき

1947年5月、銭幣館コレクションの金貨・銀貨がGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)による接收対象となりました。しかし、郡司氏は「文化財は自らの手で守り、生かすべきであると思う」と力説し、交渉の結果、文化財として公開することを条件に接收を免れることができました。



開館時テープカット

### 貨幣博物館、開館へ

1972～1976年にかけて『図録 日本の貨幣』(日本銀行調査局編、全11巻)が刊行され、こうした研究成果をもとにして、1985年11月に貨幣博物館が開館しました。その後もコレクションを守り伝え展示していくため、調査・研究を続けています。

1882(明治15)年  
日本銀行 開業



「永代橋際日本銀行の雪」井上安治画

1923(大正12)年  
銭幣館 開館



銭幣館展示風景

1944(昭和19)年  
銭幣館コレクション 日本銀行へ寄贈  
1945(昭和20)年  
第二次世界大戦終結



銭幣館収蔵品目録

1948(昭和23)年  
標本貨幣室にて公開開始

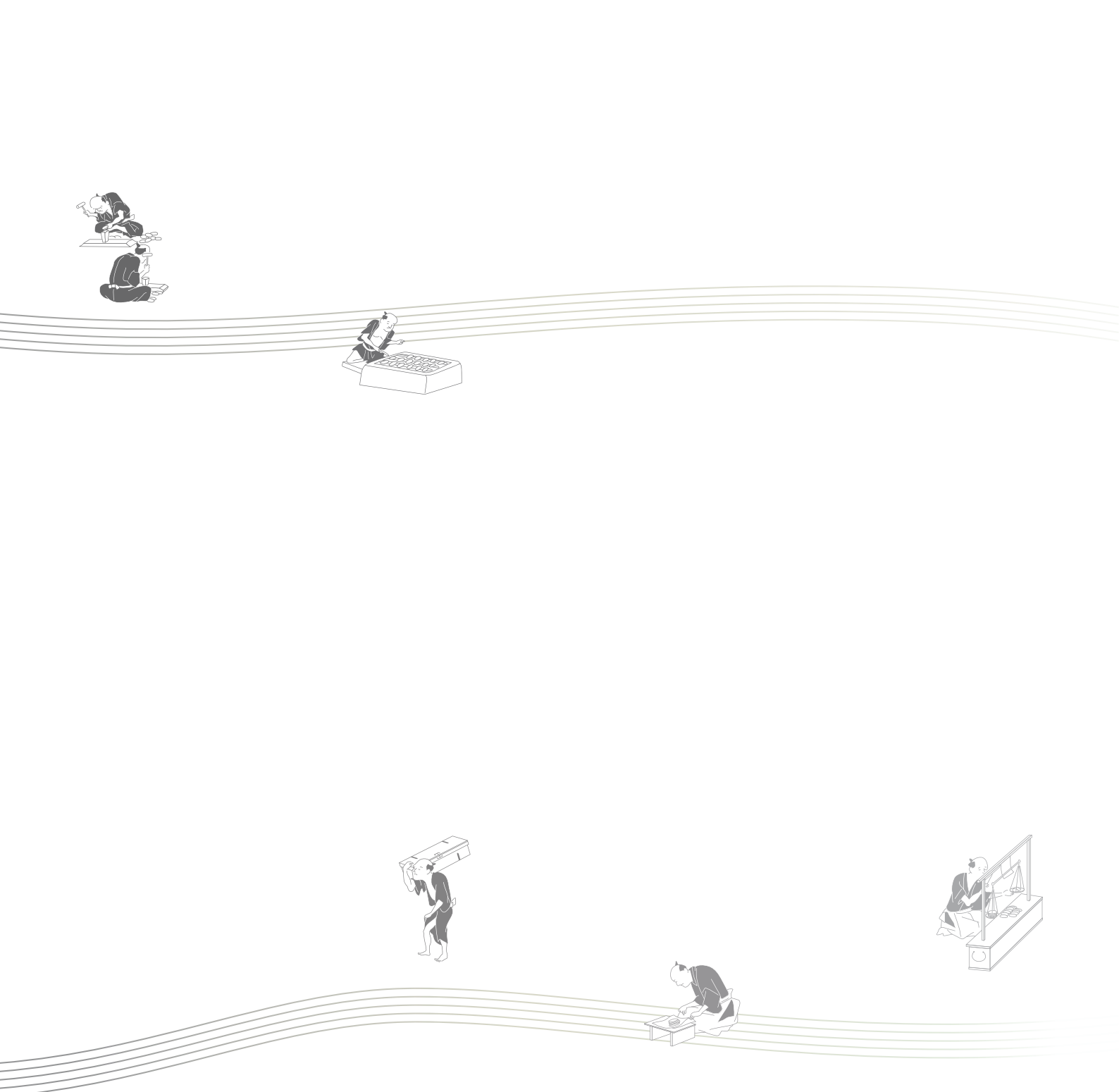


標本貨幣室

1982(昭和57)年  
日本銀行創立100周年  
金融研究所設立・貨幣博物館設置

1985(昭和60)年  
貨幣博物館 開館





「お金」にはいくつかの特徴があります

**さまざまなものと交換できる**

**さまざまな人の間で誰でも使うことができる**

**使いたい時まで貯めておくことができる**

何が「お金」として選ばれたのか  
どのように使われてきたのかみていきましょう

Money has a number of properties:  
It can be exchanged for various things;  
It can be used by anybody;  
It can be saved to use later.  
Let's look at what people have chosen to use as money  
and how they have used it.

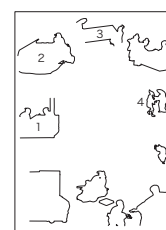
右ページ掲載画像所蔵先

1 「洛中洛外図屏風」(部分)/福岡市博物館蔵

2 「遊楽図屏風(相応寺屏風)」右隻(5~8扇)(部分)/徳川美術館蔵  
©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

3 「山王霊験記絵巻」(部分)/和泉市久保惣記念美術館蔵

4 「一遍聖絵」(部分)/清浄光寺(遊行寺)蔵







## 凡例

1. 本書は日本銀行金融研究所貨幣博物館の常設展示図録である。
2. 本書の内容は常設展示室の解説をもとにしているが、掲載内容および順番は常設展示と必ずしも一致しない。
3. 資料保存の見地などから、掲載資料は展示していない場合もある。
4. 掲載写真・図版の無断転載・利用を固く禁じる。
5. 掲載資料のうち所蔵機関名等が記されていないものは、当館所蔵資料である。
6. 当館所蔵資料以外の写真は、記載の所蔵機関等から提供を受けた。
7. 当館所蔵の複製資料(レプリカ)を掲載した場合、原資料の所蔵機関名を記した。
8. 掲載資料の写真の縮尺は同一ではない。
9. 常用漢字・現代仮名遣いの使用を原則としているが、必要に応じて異体字や旧仮名遣いを使用した場合がある。
10. 資料釈文において、□ □は原資料の欠損等を示す。
11. 年号表記は西暦を原則とし、必要に応じて和暦を付した。
12. 常設展示の企画および本書本文の編集は、当館の常設展示担当学芸員が行った。